

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Roselle Association CLUBⅢ			
○保護者評価実施期間	令和 6 年 1 2 月 1 日		～	令和 7 年 1 月 3 1 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	令和 6 年 1 2 月 1 日		～	令和 7 年 1 月 1 0 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 1 5 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動だけではなく、状況や本人の特性に応じて個別で対応できる職員体制で支援を行なっている。	コミュニケーションや言葉の発達についてのニーズが多いので、五感を刺激しながら遊びを通した言葉の発達を意識している。	絵カードのマッチングを取り入れているが、SSTトレーニングなど具体的場面を想定した取り組みを取り入れていきたい。
2	他事業所との交流できる機会があるので、いろんな刺激を受ける事とたくさんの人と関わる機会がある。	事業所だけだと小学校中学年の特定の児童との関わりしかまだ出来ていないので、他事業所で年齢の近いこと関わることで刺激が沢山あり、話す場面が増えている。	ごっこ遊びが好きでおもちゃの貸し借りでトラブルがある。「貸してちょうだい」だったり、貸してあげる協調性も意識していく。
3	運動を通して5領域に沿った刺激を受けられ、楽しく活動できる環境。	視覚や聴覚からの情報で認知し行動できるか？社会性・人間関係など運動や遊びを通して刺激を受ける事ができる。	楽しく身体を動かす（動）場面と（静）のメリハリを取り入れて行なっている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	本人の特性や状況に応じて個別での対応ができる職員とまだ対応できない職員の育成	職員の入れ替わり時期等も重なり、個々の細やかな情報共有や統一したサービスの提供が課題。	個々の特性に合わせた発達についての勉強会やサービスの質の向上についての意識向上が課題。
2	広い機能訓練室で良いが、その他相談室一部屋、事務所一部屋なので個別で対応できる空間、あと一部屋あったら良いと思う。	環境要因として音が響きやすく、静かな場所でクールダウンが必要な場面があること。	相談室でパーテーションを活用し、空間を設ける等の工夫が必要。
3	地域の公園等を活用し、交流する機会があるがまだ少ないと感じる。	近隣を散歩したりしているが、頻度的に少なく感じる。	週間スケジュールで予定を立てていき、頻度を増やしていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Roselle Association CLUBⅢ			
○保護者評価実施期間	令和 6 年 1 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 1 月 3 1 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	令和 6 年 1 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 1 月 1 0 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 1 5 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動だけではなく、状況や個々の特性に応じて個別で対応できる職員体制で支援を行なっている。	個別での創作活動や自由活動も取り入れ、本人が楽しく過ごせるよう意識している。	飽きてしまわないよう色々な遊びや活動が提供できるよう提案していく。
2	運動プログラムを通して5領域に沿った刺激を受けられ、楽しく活動できる環境。	視覚や聴覚からの情報で認知し行動できるか？社会性・人間関係など運動や遊びを通して刺激を受ける事ができる。	楽しく身体を動かす（動）場面と（静）黙想・静止トレーニングでメリハリを取り入れ行なっている。
3	シャトルランや大縄跳びなど心肺機能の向上が期待できる活動とチャレンジ心が芽生えるプログラムで苦手意識が軽減した児童が増えたこと。	みんなで目標回数を設定し、楽しみながら記録にチャレンジし取り組んでいる。	チャレンジ記録をつけ、どれくらい成長したかまとめていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	本人の特性や状況に応じて個別での対応ができる職員とまだ対応できない職員の育成。	職員の入れ替わり時期も重なり、個々の細やかな情報共有や統一したサービスの提供が課題。	個々の特性に合わせた発達障害についての勉強会やサービスの質の向上に向けて取り組んでいく。
2	広い訓練室で良いが、その他相談室一部屋、事務所一部屋なので個別で対応できる空間、あと一部屋あったらいいと思う。	環境要因として音が反響しやすく、静かな場所でクールダウンが必要な場面がある事。	相談室でパーテーションを活用し、空間を設ける等の工夫が必要。
3	地域の公園等を活用し、交流する機会があるがまだ少ないと感じる。	近隣散歩したりしているが、頻度的に少なく感じる。	週間スケジュールで予定をたてていき、頻度を増やしていく。